

令和元年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和2年6月18日
学校法人聖カタリナ学園

幼稚園名	聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園
園長名	藤井 澄子

1. 本園の教育目標等

【基本方針】

- カトリック幼稚園として「心の教育」を中心におき、祈りの伝統を守りつつ見えないものへの畏敬の念を育み、園児が自分の言葉で心から祈ることができるようにしていく。
- 幼児の楽しい経験の場としての生活環境を整え、個人差に留意しながら心身の発達の助長を図る。
- 集団生活を通じて人間関係を育み、自主性・社会性・創造性の伸長を図る。

【教育目標】

- ①小規模園として「一人ひとりがたからもの」をモットーに全園児に配慮し、安心して園生活を過ごせるよう教育環境を維持していく。
- ②小学校、実習生、異世代などとの多様な交流を通して、園児が社会性を身につけ自分の意見を表すことができるとともに、人に優しい人格を育てる。
- ③園児一人ひとりが「落ち着いた姿」で小学校に入学できるよう、幼稚園としての教育力向上に努める。

【目指す子どもの姿】

- だれとでも仲良く遊べる子ども
- よく聞き、よく見、よく考えてやりとおす子ども
- 良心の声に従って行動できる子ども
- 神の恵みに感謝し、「ありがとう」と「ごめんなさい」が言える子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ①心の教育に重点を置き、子ども同士や子どもと教師の人間関係をとおして、思いやりや優しさを育む。
- ②子どもが自主的に遊びを展開できるよう教師が配慮できるようになる。
- ③積極的な情報発信など募集に繋がる対策を実行して、園児数を確保していく。
- ④教員間の世代を超えた連携を深めることができるようコミュニケーションを徹底し、健全な関係を築いていく。

3-1. 評価項目の達成及び取り組み状況（本年度の重点目標）

評価項目	結果	取り組み状況
① こころの教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の祈りの中で、教師が手本となり友達のために子ども自ら祈ることができるようになることを目標に関わりを深めている。 ・本年度徳島県で開催された「第34回全日本私立幼稚園連合会四国地区教育研究大会」において『思いやりや優しさを育む心の教育』と題して、教師の日々の声かけや言動の積み重ねにより、行動の規範となる教師のとしての役割の重要性について事例発表をすることができた。 ・年間の宗教カリキュラムに沿って、毎月の誕生日会にはシスターによる講話を計画し、御聖堂訪問など宗教者を身近に感じられる環境を整えている。
② 子どもが主体的に活動できるための教師の配慮	B	<ul style="list-style-type: none"> ・2年目の教員3人を担任にし、上記発表を行った7年目の教員を指導役として「教師の配慮」等、子どもへの関わり方や援助の仕方を伝えることができる体制にした。 ・2年目の3教員の自己評価は三者三様であるが、自己評価の「Ⅱ. 保育のあり方・幼児への対応」、「Ⅲ. 保育者としての資質と能力」については、教師としての自覚が増し、子どもの主体性を生かした活動を展開する姿があり、2年間の成長が見られた。 ・7年目の教員が前述の教育研究発表を準備していく過程において、本園の建学の精神と新幼稚園教育指導要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をどのように融合して保育を展開していくかを園内研修で話し合い、週案に「10の姿」を記述する欄を設けてみては、との提案から、日々の子どもの少しの変化を「10の姿」として捉えて記録できるようになった。

③ 園児募集対策	C	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 100 名に対して 52 名からのスタートとなったが、満 3 歳児の年度途中入園により年度末には 62 名となった。 ・本年度 10 月より幼児教育無償化となったことを踏まえ、カトリック園として人間形成の基盤となる「こころの教育」に力を入れていることや附属幼稚園として大学教員による専門の教育が受けられる教育環境があること、また、大学の施設を利用した行事や発表会ができること等をホームページで発信し、広報を充実していく必要がある。
④ 教員間のコミュニケーション	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の教育職員配置は、管理職 2 人（園長・副園長【教頭兼務】）、教諭 4 人（7 年目 1 人、2 年目 3 人）、その他非常勤（3 人）で構成されている。昭和世代と平成後半世代の考え方や捉え方に違いがあり、前年度は意思疎通ができにくい関係も窺えたため、今年度は日頃から楽しい会話ができるような雰囲気作りを心がけ、毎月の職員会でもコミュニケーションの大切さを周知していった。 ・園長が大学教員を兼務しているため、副園長の役割は大きい。次年度は副園長を交代し、新しい体制で臨む計画にある。

3-2. 評価項目の達成及び取り組み状況（その他）

⑤ その他：地域の幼児教育センターとしての役割	B	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで未就園児対象の親子の集い、「カタリナピッコロ」を月 2 回継続してきた。参加親子には好評であるものの参加者数が伸び悩んでおり、地域における子育て支援機能を十分に果たしているとは言えない状況にある。今後、大学キャンパス内にある子育て支援広場“ぼけっと”とも連携を図り、園庭開放の実施と合わせて、地域に開かれた教育施設を目指していきたい。
⑤ その他：安全管理	C	<ul style="list-style-type: none"> ・創立から 50 年が経過することもあり、園舎の老朽化は否めないが、耐震化及びアスベスト

		<p>対策は実施済みである。また、遊具についても安全第一に、適時必要な対応を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本園は松山防災マップにおいて 0～30 cmの水没地区と区分されているが、保育室と運動場に段差がない平屋建てであることから、水害に備えた対策が必要な状況にある。 ・聖カタリナ大学(同キャンパス)が地域の避難場所に指定されており、万全を期すため、年複数回の避難訓練を実施している。 ・上記に係る避難計画のほか、学校安全計画、危機管理マニュアル、消防計画、災害時における「個人カード」と「引渡しカード」、服薬依頼書等を作成している。
⑤ その他；人事(労務)管理	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本園は変形労働制をとっており、行事等の繁忙期や長期休暇期など、時期に応じて勤務時間を調整している。加えて、早出・遅出の勤務時間を併用し、タイムカードを導入して徹底した勤怠管理を行っている。 ・働き方改革関連法が施行され、5日間の有給休暇の取得が義務づけられたことから、土曜日を使った研修の実施が困難な状況となったが、アレルギー研修と学園内研修は実施することができた。今後も可能な限り、研修の機会を確保していきたい。
⑤ その他：財務管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・財務管理は主に法人本部と園長、園の会計事務担当で行っている。 ・毎年度監査法人による会計監査を実施しており、財務管理は適正に行えている。
⑤ その他：評価と情報の公開	C	<ul style="list-style-type: none"> ・本園ではこれまで毎年、教員全員が自己評価を実施し、短期大学部保育学科の教授による評価・助言を得ていたが、情報の公開までは至っていなかった。 ・今年度より、学校関係者評価を受けることで、幼稚園の情報を保護者や地域に対して積極的に公開し、学校運営の改善に生かしていきたい。

4. 総合的な評価結果

評価結果	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員の自己評価結果から、カトリックのミッションスクール園としての教育理念について、若い世代の教員に十分浸透していないことが分かった。今後、本園の中心的理念を理解できるように工夫していく必要がある。 ・今回の教育研究発表を機に、これまでの保育の仕方と新教育要領との兼ね合いを職員一同で共通理解することができた。 ・カトリック園として培われてきたこれまでの伝統を受け継ぎつつ、モンテッソーリ教育法と縦割り・横割り保育を併用していくことで、子ども同士の思いやりや自立心を育てることができる環境を維持していきたい。 ・各地区の小学校より、本園の卒園生は、「先生のお話がきちんと聞ける」との評価を得ている。また、園の年間行事を通して一人ひとりが輝けるように役割を担っていく過程で、それが子どもの自信につながり、卒園時にはどの園児も堂々とした態度で話をするようになってきている。今後も継続していきたい。 ・不安を抱えている子どもに対しては、くるみ園の訪問指導や助言を教師が真摯に受け止めて実践していくことで、園児や保護者との信頼関係を深めることができ、不安感を取り除いて卒園することができている。 ・保護者アンケート結果から、保護者の意見や要望が年々変化してきていることが読み取れる。保護者と園がひとつになって子どもを育てていくという観点を見失しなわないようにしながら、園の改善を図っていきたい。なお、保護者アンケートは、ここ数年、同じ項目で続けているが、今後、質問内容を精査し、見直していきたい。

※上記「3.・4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	「心の教育」の教育力を上げる。	①園児一人ひとりの思いに気づき、思いやりや優しい心が育つような言葉かけや配慮・援助を行う。 ②園内研修を通して、教員各人がクラス全体と個を見通した保育ができるようにする。
2	学校評価を充実させる。	①令和元年度の学校関係者評価を受け、令和2年度から公表する。 ②保護者アンケートを見直し、園の現状把握と改善につながるよう、質問内容を改定する。
3	園児募集活動を効果的に展開する。	○園児数 60 名を維持できるよう、本園の情報を積極的に外部発信していく。
4	新制度への移行を検討する。	○新制度への移行について具体的に検討し、準備を進めていく。

6. 学校関係者による評価結果

1) 学校関係者評価のうち、今後も継続して取り組むべき事項

評価項目① 心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動の中で教師の働きかけや言動の積み上げを大切にし、優しさや思いやりの気持ちを育んでいこうとする教育的な意図がよく伝わる。 ・神様に対する畏敬の念が、子供たちの優しさや生命尊重の気持ちを育んでいる様子がよくわかった。 ・宗教カリキュラムと日々の保育や教育目標が常に心の教育に定まった内容となっている。
評価項目② 子供が主体的に活動できるための教師の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の”こども理解“を中心に据え、活動の目的をしっかりと持ちながら子どもと接している。 ・「幼児期に育ってほしい 10 の姿」を全職員が常に意識して保育をフィードバックできる工夫がある。 ・モンテッソーリ教育法と縦割り・横割り保育を併用していることで、子どもたち自らが遊びや自己選択活動ができる環境が整っているほか、異年齢との関わりが必然的にあり、子どもたちが安心して園生活を楽しみ、穏やかで生き生きとした遊びの時間が流れている。 ・教師間のチームワークが良く、こどもの困り感に素早く気づき、それに向けての援助やサポートが良好である。 ・聖誕劇やおひな祭り発表会では、音を心から楽しみ、心で音を奏で全身で表現する表現力が素晴らしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと教師の信頼関係が構築できている。 ・保護者に寄り添い、穏やかな教員に囲まれ、子どもたちがのびのびと育つことができ、バランスの良い園だと感じる。 ・教員が一丸となって幼児期に必要な心と身体を作る原点の保育がある。
評価項目③ 園児募集対策	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や困り感を感じている子どもや保護者の思いを汲み取り、全園児が卒園時に大きく成長を遂げて保護者に喜ばれているケースを耳にしている。
評価項目④ 教員間のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場所としての業務改善や雰囲気作りに工夫をされ、やりがいのある仕事に邁進されているように感じる。 ・教師間の役割分担が明確で、行事や保育環境の完成が優れており、子どもたちが生き生きと遊びを表現する力強さを痛感した。
評価項目⑤ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもが笑顔で過ごすことができるようなセンターとしての役割を果たしている。 ・カタリナピッコロに参加し、丁寧な音楽指導や工作指導を受けることができ、園の教育方針がよく伝わる内容であった。 ・危機管理に対する意識が高く、マニュアルも実効性のあるものが備えられている。 ・園舎の周りや園内の安全管理・清潔管理が整っており、日々の生活環境に不備がない。 ・ホームページが分かりやすく構成されており、子どもと一緒に振り返り、子どもの成長を期待できるものになっている。 ・保護者の評価も前年度から改善されている項目が多く、日常的な努力の成果と感じる。

2) 学校関係者評価のうち、今後、改善・解決に向けて取り組むべき事項（今後の課題）

評価項目② 子供が主体的に活動できるための教師の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育課程表を再検討することで教員間の共通理解が得られ、園の教育方針や教育目標がより達成できるのではないか。 ・幼稚園教育要領の「10の姿」とモンテッソーリ教育の学習環境によって子どもに育っている能力・態度との関連を明確にすることで、モンテッソーリ教育の意義が明らかになる。
評価項目③ 園児募集対策	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育力を積極的にアピールし、HP や SNS などの情報発信を日常的に継続するとよい。
評価項目⑤ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな行事の準備時に、教員にかなりの負担があったと思われる。日常に追われ、保育以外の見えない時間での業務が多いのではないか。 ・親子で自由に遊べる時間を設けるなど、教員と保護者との関わりを深めることで、地域の中での役割も果たし、同時に園児募集にもつなが

	<p>ることになるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none">・子育て支援の一環として継続している“園庭開放”や“カタリナピッコロ”の活動状況はどうであったのかを掲載・公表をしていくべきである。大学の“ぼけっと”のような地域子育て支援事業への取り組みも必要ではないか。・評価において、本来は園見学と教員への聴き取りによって評価を実施することが効果的である。・今回使用された自己評価チェックリストは園独自のものなのか。チェックリスト自体の点検をされることも必要である。
--	---

以 上